

アクリルガッシュの特色と進行方法の一例

平成 24 年 9 月講習会より

9 月の実技講習会「イメージ表現」では、アクリルガッシュの特色とその使い方を説明し、特色を生かした制作方法の一例を示しています。ここでは今回の内容を要約したものを掲載します。

(必ずこのような方法でしなくてはならない、というものではありません、実際は個々でやりやすいように制作してください)

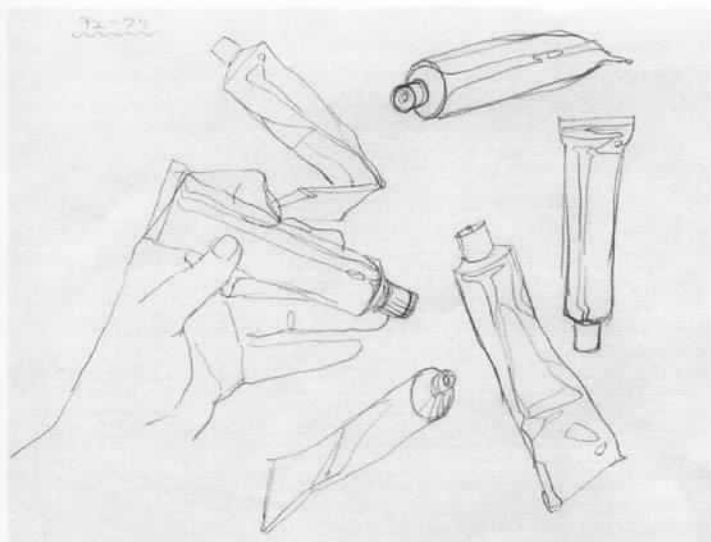
今回のテーマ (3 年生向け)

言葉 「遊び」 モチーフ 「チューブ」

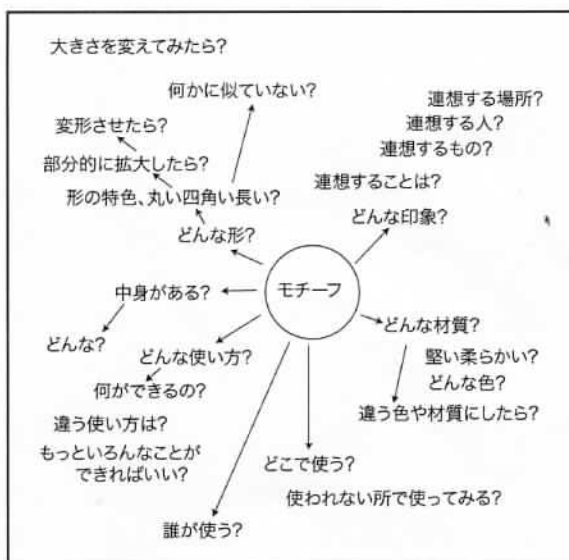
●発想の展開

イメージマップによるヒント探しやモチーフをスケッチする中からヒントを見つける方法で行いました。

いろんな角度からスケッチしてみても想像をふくらませよう。



イメージマップを作って発想のヒントを探そう。



- アクリルガッシュは塗り重ねがきき早く乾燥するのでまず下地を大きく作る方法を説明しています。鉛筆による下描きは細かくしすぎないようにします。
その上で水を多目に使っても、濃いめで不透明でも構いませんので大きな面積を先に作ってしまう方法です。

▼水を多目に使った背景作り



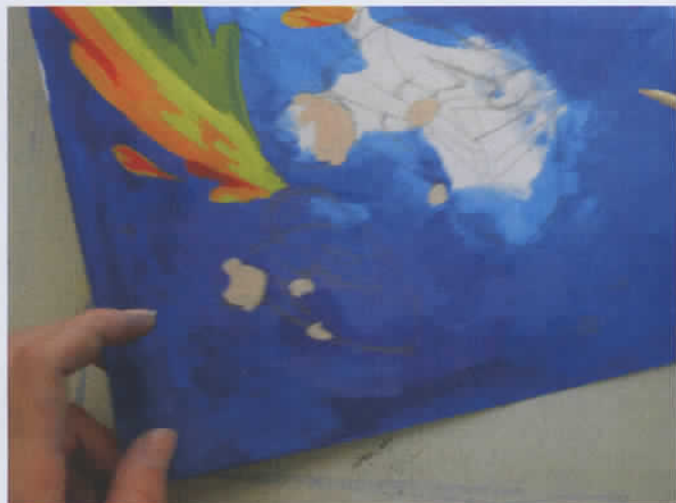
▼濃いめで不透明による背景作り



- いったん乾燥すれば下の色が溶け出さないなので、主役になるような部分を描き込みます。
必要ならもう一度鉛筆で下絵を起こしてもいいでしょう。



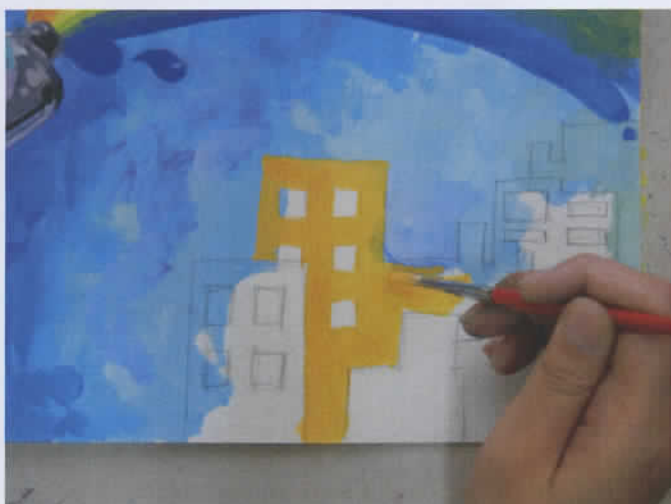
同じ色で塗る別の部分は一度に
塗ってしまいます。
この場合は顔の肌色。



塗り直しは一度乾いてから
塗れば元の色が溶けることは
ありません。



背景の建物にとりかかりました。
まず大きく色をおいて行きます。



全体を見ながら色合いを調整します。



細かな部分を仕上げて行きます。



完成した作品



※ここに提示した作品はアクリルガッシュによる制作を説明するための一つの例です。

イメージ表現の概要と評価のための観点

- 与えられた「言葉」とモチーフ(一人一人に配付)の組み合わせから豊かに発想し、そのイメージを色彩によって画面(B4画用紙、横位置 全面使用)に表現するものです。
- 時間は90分です。
- 絵の具はアクリルガッシュの12色または18色セット(販売用されているもの)です。
- モチーフは正確に描写できているかどうかを問うものではなく、言葉との組み合わせの中でどのように扱われているかが大切です。画面の中に必ずモチーフとわかるように表現してください。モチーフの色合いや個数などは自由です。
- 評価のための観点は以下の通りです。
 - ・与えられた言葉とモチーフを組み合わせ、感じ取ったことや考えたことをもとにして豊かな発想や構想ができているか。
 - ・生み出した発想をもとにその主題について、色彩を用いて効果的に美しく表現できているか。